

出雲・隠岐海域漁場保全調査

(漁場保全対策推進事業)

山根恭道

1. 調査目的

水産生物にとって良好な漁場環境の維持を図るため、八束郡鹿島町および隠岐郡西ノ島町沿岸域において水質、生物のモニタリング調査を実施し、良好な漁場環境を維持する対策を検討する。なお、調査の詳細は「平成 14 年度漁場保全対策推進事業調査報告書(海面)」により報告した。

2. 調査方法

概要を表に示した。

		調査地点	調査回数	調査項目、内容
水質調査		鹿島町 5 点 西ノ島町 7 点	隔月	水温、塩分、DO を水深別(0、2.5、5、10、15、20、30、40、底から 2 m)に測定。その他として水色、透明度の測定。
生物モニタリング調査	藻場調査	鹿島町 12 点 西ノ島町 10 点	6、8 月 5、8 月	調査対象面積、水深の測定。 生育密度を 5 段階で評価。
	底生生物調査	鹿島町 5 点 西ノ島町 6 点	6、8 月	底泥の温度、粒度組成、COD、TS、底生生物の個体数、湿重量、種別または類別分類。

3. 調査結果

調査結果の詳細は付表に示した。

(1) 水質調査

透明度は鹿島町では 7～16 m、西ノ島町では 6～22 m、水温は鹿島町では 12.3～26.4、西ノ島町では 10.8～26.2 であった。また、塩分は鹿島町では 27.25～34.55、西ノ島町では 33.38～36.50、DO は鹿島町では 4.96～7.94 mg/L、西ノ島町では 4.45～8.32 mg/L であった。

(2) 生物モニタリング調査

鹿島町では多年生大型褐藻類のクロメ場 12.5 ha を観察し、その結果 6 月が 3～5 点、8 月が 1～5 点、平均がそれぞれ 4.0 点と 3.3 点であった。西ノ島町ではガラモ場 0.5 ha を観察し、6 月が 3～5 点、8 月が 2～5 点、平均がそれぞれ 4.1 点、2.9 点であった。

鹿島町では、COD の値は 6 月が 1.8～4.8 mg/g 乾泥、8 月が 2.8～3.5 mg/g 乾泥であり、TS は両月とも ND であった。西ノ島町では、COD の値は 6 月が 2.2～9.7 mg/g 乾泥、8 月が 5.2～8.1 mg/g 乾泥であり、TS の値は 6 月が ND～0.015 mg/g、8 月が ND～0.019 mg/g であった。

鹿島町では SM 採泥器 1 回当たりで採取された底生動物の個体数は、調査地点の合計で 6 月が 3157 個体、8 月が 2173 個体であった。類別の構成割合については、6 月・8 月共に St.4 と St.5 で出現個対数が多く、その主体は触手動物の筈虫類 phoronidae(ホウキムシ科)であり、水深が深いほど生息密度が高い傾向が見られた。出現種の種類数は 6 月・8 月共に 20 種類であり多様度は低い状況にあった。

西ノ島町では底生動物の個体数は調査地点の合計で 6 月が 281 個体、8 月が 166 個体であった。類別の構成割合については両月とも優占種は無く、多毛類の比率が高い傾向はあったが、個体数が少なく地点別や水深の違いによる特徴は確認されなかった。

鹿島町、西ノ島町ともに汚染指標種に指定されている底生生物の生息は確認されなかった。